



学校教育目標：「豊かに育つ生徒」

校 訓：「求学・親和・創造」

R7.1.17(金)発行 文責 校長 六山 和弘



学校の主役は、生徒の皆さんです
皆さんの挑戦を応援します
「自ら動く生徒会」に期待！！



1月8日(水)、生徒会役員任命式を実施しました。

校長から生徒会役員に任命状を、生徒会長から専門委員会役員に委嘱状がそれぞれ手渡されました。

【任命式の校長あいさつから(抜粋)】

次に示すことわざを知っていますか？



- ◆ 「三つ子の魂百まで」
年をとっても、幼いころの性格や気質は変わらないことを意味します。
- ◆ 「雀百まで踊り忘れず」
幼い頃や青年時代の癖や習慣は、年を取っても抜けないことを意味します。(悪い習慣を言う)

何が言いたいかというと、だからこそ、この中学校時代を皆さんには大切にしてほしいのです。なぜかという、あと3年から5年の間に皆さんは、法律上の成人年齢、つまりは大人になります。大人になってしまうと、全ての責任は自分自身で負うこととなります。そうなる前に、皆さんには、いろいろなことに挑戦して、自分を磨き、時には失敗をしながら、学んでほしいと強く願っています。

今のままの自分でいいと思いますか？ぜひ、想像力を働かせて考えてみてください。そんな中、私は、以前、感銘を受けた中学2年生のことばがあります。以下に紹介します。「私は今まで、人の役に立ちたい気持ちが薄かったり、失敗を恐れていたりにしていました。そんな自分が、リーダーの役を引き受けたことで、たくさんの気づきや学びを得て、さらに挑戦したいことが増えていっています。・・・」この言葉は、まさに中学生の皆さんに私が経験してほしいと願っていることそのものです。思春期の皆さんは、どうしても外見に気が向きがちで、そこにこだわろうとしがちです。それがいけないこととは言いませんが、どうか、内面を磨くことをもっと意識して、ここにも気を向けてほしいのです。

今日から、ここにいる生徒会役員の皆さんが、リーダーとしてこの学校を、生徒会をつくっていってください。私もすごく期待をしています。それと同時に、生徒の皆さんにお願いしたいのは、どうぞ、リーダー任せにしないでください。ということです。リーダー任せで、皆さんが無関心であるならば、確実に、このリーダーたちは疲弊してしまい、力をなくしてしまいます。どうか、ともに動くことを忘れないでください。よろしく願います。

それでは、本日、ここに新しく誕生した生徒会役員の皆さんと、全校生徒の皆さんとがともに高みを目指して創造する西大村中学校が、さらに活気に満ち、皆が笑顔でいられる楽しい居場所となることを心から祈念して、話を終わります。皆さん、一緒に頑張りましょう。

【生徒会&専門委員会役員】

生徒会長	副会長	書記
2-2 山口 翔大さん	2-2 野口 琴子さん、 2-4 高山 一馬さん	1-5 西平早季花さん、 1-1 中山 多一さん

	学 習	生 活	文 化	保 体
委員長	2-4 向井 皓哉さん	2-2 小西 璃心さん	2-3 山下 すずさん	2-3 萩原 佳さん
副委員長	1-5 井本 萌愛さん	1-1 松崎 脩真さん	1-1 内野 雄稀さん	1-2 濱口 充由さん
	図 書	美 化	給 食	放 送
委員長	2-4 渡部千彩子さん	2-4 中嶋 美結さん	2-2 吉田 雄大さん	2-1 江崎 夢さん
副委員長	1-4 倉田 芽夏さん	1-3 江口 蒼馬さん	1-3 森 加江さん	1-1 水本 寛也さん



12月24日(火) 第2学期終業式の日、生徒会役員退任式を実施しました。

一年間、学校のリーダーとしての活躍、本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。伝統ある西大村中学校生徒会のバトンをしっかりと次に繋げることができた皆さんの活躍に、心から盛大な拍手を送ります。それぞれの退任のあいさつも、経験したからこそ感じる事ができた、深みのある素晴らしい言葉でした。

【令和5年度から令和6年度にかけて活躍した生徒会役員&専門委員会役員の皆さん】

- ◎生徒会長：松本 裕一朗さん
- ◎副会長：黒田 雄介さん、山本 柚希さん
- ◎書記：高山 一馬さん、野中 佳歩さん



- ◎学習委員長：末竹 由依さん ◎生活委員長：田代 憲章さん ◎文化委員長：桑原 太志さん
- 副委員長：向井 皓哉さん 副委員長：伊東 夢颯さん 副委員長：山下 すすさん
- ◎保体委員長：倉橋 千虹さん ◎図書委員長：樋口 うたさん ◎美化委員長：儀保友梨香さん
- 副委員長：山口 翔大さん 副委員長：渡部 千彩子さん 副委員長：中嶋 美結さん
- ◎給食委員長：上野 芹さん ◎放送委員長：領家 大悟さん
- 副委員長：小西 璃心さん 副委員長：江崎 夢さん



がんばれ!

【はなむけの言葉】

人生は一冊の書物に似ている。
愚かな者はパラパラとそれをめくっていくが、賢い者は丹念にそれを読む。
なぜなら彼は、ただ一度しかそれを読めないことを知っているからだ。

今後、さまざまなことに挑戦することを大切にがんばってください!!

人と人のふれあいや、つながりを大切にしてほしい・・・

以前、たまたま回覧されてきた小冊子の中に、人と人のふれあいや「心の栄養」についてのエピソードがありましたので、抜粋して下記に紹介します。

聖心会シスターの鈴木秀子さんは「アメリカの大病院で医師をしている友人から聞いた話」として、著書の中で次のようなエピソードを紹介しています。

あるとき、大病院にナンシーという三歳の女の子が入院してきました。身長と体重は一歳児の標準体型ほど。全身が干からびたような痛々しい姿で、言葉を話すこともできませんでした。そして器質的な問題を抱えているわけでもないのに、入院から三か月を過ぎても全く成長が見られなかったのです。

実は、ナンシーの入院以来、両親は一度も面会に来ていませんでした。病院からの呼び出しにも、応じる気配はありません。何とか親に会わなければと考えた医師は、自宅を訪ねることにしました。

ナンシーの両親は、エリートコースの中でも最高といわれるハーバード大学の経営大学院に在籍しており、二人とも論文の執筆に追われる毎日を送っていました。医師が自宅を訪ねた際も、居間に通されたかと思ったら、執筆が一段落するまで待たされるというありさまでした。

医師が待ちきれなくなった頃、ようやく書斎から出てきた母親は、こんなことを言いました。「この論文が通れば、世界中のどこでもエリートとして受け入れられます。だから論文が通った後で子供を作ったのです。しかし、ナンシーは間違っ生まれてきてしまった・・・今は面倒を見る暇がないので、もうちょっと預かっていてください」医師は黙ってその家を後にしました。

病院に戻った医師は、陽当たりが良く人が行き交う廊下にナンシーをベッドごと移動させると、頭上にこんな張り紙をしました。

*

〜〜私はナンシーです。あなたがここを通るとき、もしあなたが急いでいるならば「ナンシー」と呼んで、ほほ笑みかけてください。

もしあなたに少しの時間があるならば、立ち止まって「ナンシー」と呼びかけ、私を抱き上げ、あやしてください。

もしあなたに十分なゆとりがあるならば、「ナンシー」と呼んで私を抱き上げ、ほおずりをして、あなたの胸と腕の温かさを私に伝えてください。そして私と話をしてください。〜〜

*

この貼り紙を見た医師や看護師は、皆が足を止めて、ほほ笑みながらナンシーの名前を呼び、抱いたりあやしたりするようになりました。

こうして一週間が過ぎた頃、ナンシーはほほ笑むようになりました。そして三か月がたつ頃には、正常な三歳児の体重に近づき、言葉も急速に覚え始めたのです。

親による十分な養育を受けられない中で「生きる力」を失っていたナンシー。回復の兆しが見られたのは、周囲の大人たちから愛情を注がれたときでした。

愛情を必要としているのは、幼い子供だけではないでしょう。自分に向けられたほほ笑みに心を癒やされたという経験は、誰しも一度や二度はあるのではないのでしょうか。人と人のふれあいによって生まれるぬくもりは、私たちの「心の栄養」といえるのです。

【出典】長崎県モラロジー協議会寄贈 ニューモラル 道德を考える月刊誌 No. 651より一部抜粋

いつも笑顔でがんばる生徒の姿を思い出しながら、心にしみた文章でした。皆さんは、いかがでしょうか?